

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 700 号	氏名	片岡 英樹
学位審査委員	主査	千住 秀明	
	副査	川上 純	
	副査	東 登志夫	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、糖尿病に伴う高血糖状態の患者では廃用性萎縮が惹起されると IGF-1 や毛細血管の動態が正常な場合とは異なり、その回復が得られにくいのではないかとする仮説を実験モデル動物で検証したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 実験動物には 10 週齢の Wistar 系ラット 42 匹を streptozotocin (STZ) の投与によって発症させた糖尿病 (DM) ラットと生理的食塩水を投与した正常ラットの 2 群に分け、さらに各群を通常飼育群、2 週間のギプス固定群、ギプス固定解除後に 2 週間通常飼育とし、再荷重を行う群に分け、下肢骨格筋の廃用性筋萎縮の回復状況を組織化学的・生化学的手法で解析したもので、研究手法としても妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、正常ラットではギプス固定解除後の再荷重によって筋線維萎縮が回復し、あわせてインスリンや IGF-1、毛細血管数の増加が認められた。一方、DM ラットでは再荷重を行っても筋線維萎縮の回復ならびにインスリン、IGF-1、毛細血管数の増加は認められず、これらの反応性の違いが明確になっている。よって、本研究の結果は糖尿病の運動療法を考えていく上で重要な基礎データを提示しており、今後の研究の進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文はリハビリテーション科学分野の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと